

## II 各教科の正答率、誤答例及び所見

### 2 社会

#### (1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	3	353	73.5%	22	4.6%	101	21.0%	4	0.8%	75.4%
	問 2	5	65	13.5%	323	67.3%	49	10.2%	43	9.0%	54.4%
	問 3	3	307	64.0%	136	28.3%	27	5.6%	10	2.1%	78.3%
	問 4	3	196	40.8%	42	8.8%	240	50.0%	2	0.4%	45.2%
2	問 1	3	163	34.0%	79	16.5%	224	46.7%	14	2.9%	41.8%
	問 2	3	412	85.8%	0	0.0%	29	6.0%	39	8.1%	85.8%
	問 3	2	323	67.3%	0	0.0%	154	32.1%	3	0.6%	67.3%
	問 4	5	235	49.0%	187	39.0%	22	4.6%	36	7.5%	71.8%
	問 5	3	318	66.3%	23	4.8%	132	27.5%	7	1.5%	68.8%
3	問 1	3	220	45.8%	3	0.6%	192	40.0%	65	13.5%	46.3%
	問 2	2	306	63.8%	0	0.0%	168	35.0%	6	1.3%	63.8%
	問 3	5	154	32.1%	181	37.7%	49	10.2%	96	20.0%	52.6%
	問 4	2	303	63.1%	0	0.0%	176	36.7%	1	0.2%	63.1%
	問 5	3	127	26.5%	0	0.0%	347	72.3%	6	1.3%	26.5%
4	問 1	4	262	54.6%	27	5.6%	118	24.6%	73	15.2%	57.3%
	問 2	5	94	19.6%	252	52.5%	64	13.3%	70	14.6%	44.8%
	問 3	2	311	64.8%	0	0.0%	166	34.6%	3	0.6%	64.8%
	問 4	2	229	47.7%	0	0.0%	247	51.5%	4	0.8%	47.7%
	問 5	3	142	29.6%	0	0.0%	328	68.3%	10	2.1%	29.6%
5	問 1	3	186	38.8%	1	0.2%	255	53.1%	38	7.9%	38.9%
	問 2	3	21	4.4%	0	0.0%	448	93.3%	11	2.3%	4.4%
	問 3	5	42	8.8%	80	16.7%	132	27.5%	226	47.1%	17.5%
	問 4	3	155	32.3%	0	0.0%	318	66.3%	7	1.5%	32.3%
	問 5	3	149	31.0%	0	0.0%	322	67.1%	9	1.9%	31.0%
	問 6	5	187	39.0%	77	16.0%	37	7.7%	179	37.3%	47.3%
	問 7	3	157	32.7%	1	0.2%	208	43.3%	114	23.8%	32.8%
6	問 1	2	246	51.3%	52	10.8%	108	22.5%	74	15.4%	56.7%
	問 2	3	276	57.5%	1	0.2%	99	20.6%	104	21.7%	57.6%
	問 3	4	66	13.8%	84	17.5%	249	51.9%	81	16.9%	22.5%
	問 4	2	256	53.3%	0	0.0%	197	41.0%	27	5.6%	53.3%
	問 5	3	172	35.8%	8	1.7%	205	42.7%	95	19.8%	36.7%

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 各問題の誤答分析及び所見

今回の学力検査の平均点は、49.5点(昨年度50.3点)であった。標本の通過率は47.9%(昨年度49.6%)で、標準偏差は21.42であった。分野別の通過率は、地理的分野65.1%(昨年度63.6%)、歴史的分野48.5%(昨年度40.7%)、公民的分野29.7%(昨年度46.7%)という結果であった。また、大問6の総合問題の通過率は42.4%(昨年度44.2%)であった。

大問1の問1は、例年出題している世界の地域構成の問題である。今年度は、大西洋の位置をもとにオーストラリア大陸の位置と名称を答えさせるもので、正答にたどり着くには複数の要素が必要であったが、通過率は75.4%で良好であった。この単元における知識の定着がみられる。大問1の問2と大問2の問4はともに、複数のグラフや表を読み取る問題であったが、大問1の問2の方が通過率が低かった。この問題は、2つのグラフに共通する特色を記述するものであった。複数の資料を関連付ける力の育成が望まれる。

大問3は、近世までの日本に関する出題であるが、問2の政治や社会の様子や問4の文化について問う

問題では、通過率は概ね良好であった。歴史的分野の学習では、それぞれの時代の特色を、他の時代と比較しながら学習することにより、いっそう理解を深めることができる。

大問5の問2は、衆議院の総選挙が行われたときに新しい内閣が成立するまでの出来事を、出来事の順に並べかえる問題であった。通過率は4.4%ときわめて低く、新しい内閣ができる仕組みが十分に理解されていない。議会制民主主義を学習させる際には、現在の政党への関心を高めるように扱うなどの適切な指導が必要である。

文章を記述する問題については、資料から読み取った内容と自分の知識を関連付けて表現する力をみようとすることが多い。こうした問題に、しっかりと取り組めるように、授業では、生徒自身に図を作成させるなどの工夫をして、知識の定着や、思考力や表現力等を伸ばすための取組が求められる。

① 地理的分野において、授業で日本や外国について調べる学習の場面を想定し、地図や統計資料などの活用を通して、世界の様々な地域や世界と比べた日本の地域的特色に関する基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・表現力をみよとしたものである。全体の通過率は62.1%で概ね良好であった。

問1 六大陸と三大洋に関する出題である。通過率は75.4%と良好であった。六大陸と三大洋の位置関係及び名称は、地理的認識を深める際の座標軸の役割を果たす基礎的・基本的な知識であり、必ず習得させたい。

問2 小麦の自給率(グラフ)と、生産量と輸出量(表)について読み取った内容を関連付けて、中国と共通する特色をもつ国及びその特色を答える問題で、資料活用の技能や表現力をみよとしたものである。通過率は54.4%と今一步であるが、正答と一部正答を合わせると80.8%の受検生が得点している。受検生の8割は中国と共通した特色をもつ国としてインドを読み取れている。しかし、自給率と、生産量と輸出量の関係の2点を関連付けて解答することは難しかったようである。日常の授業の場面で、複数の資料から読み取れる内容について、それらを関連付けて説明する学習を繰り返す必要がある。

問4 6か国の輸出入総額と品目の割合を示す表から、読み取れる内容について問う問題である。通過率は45.2%とやや低かった。誤答はア、ウの割合が高かった。アについては、フランスの輸入品目の中から原油を読み取っているものの、「1割以上」の判断がつかなかったものと考えられる。ウについては、アジア州に属する国としてインドを選択できなかったものと考えられる。地域構成のような基礎的・基本的な知識の定着に加え、日頃から統計資料に親しみ、表題や単位を意識して読み取る学習を繰り返す必要がある。

② 地理的分野において、日本のある地域の気候や産業などについて調べる学習の場面を想定し、地図や統計資料などの活用を通して、日本の諸地域や地域的特色、身近な地域の調査、日本の地域構成に関する基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・表現力をみよとしたものである。全体の通過率は、67.7%と概ね良好であった。

問1 気温と降水量を示すグラフから県庁所在地における地域の気候区分を問う問題である。通過率は41.8%とやや低かった。グラフと県庁所在地の組み合わせはできていても、県庁所在地名の「岡山市」までは解答できずに正答とならなかったものが多かった。県庁所在地名の誤答としては、「広島市」が多かった。日本の気候は6つに分けられており、また、それらの特色についてはしっかりと押さえさせたい指導事項である。

問3 中部国際空港と名古屋港における輸出入に関する表から2つの港の貿易品目を読み取り、まとめの文章と関連付けて、航空輸送と海上輸送の違いを判断する問題である。通過率は、67.3%で概ね良好であった。誤答の多くは、重量の重い自動車や石油等を中部国際空港において輸出入しているという誤った認識である。航空機と船舶では、輸送する品目の重量や大きさの違いに特色があらわれることから解答はそれほど難しいものではないと考えられる。確実に習得しておきたい基礎的・基本的な知識である。

問4 南伊勢町と名古屋市を比較しながら、人口の動態を示した表やグラフを読み取り、その特色を記述する問題である。全体の約4割の受検生が一部正答であった。これは、問題文の読み取りが不十分であったことが原因だと考えられる。例えば、資料2と資料3における各年代の人口の割合を示すグラフから、南伊勢町は名古屋市に比べ65歳以上の高齢者の割合が高いと解答できたが、資料1から読み取れる、南伊勢町と名古屋市のそれぞれの人口の減少や増加について触れていない解答がみられた。落ち着いて問題をよく読み、指示に合った解答を書くための指導が求められる。

3 歴史的分野の近世までの問題である。全体の通過率は49.0%とやや低かった。自分が興味のある時代の外国とのかかわりについて調べる学習の場面を想定し、近世までの日本の歴史に関する基礎的な知識とともに、歴史に対する思考力・表現力をみようとしたりしたものである。

問1 中大兄皇子に関連する出来事のうち、壬申の乱について、その理解をみる問題である。中大兄皇子については大化の改新の中心人物として、また、天智天皇の死後に起こった壬申の乱については、古代の戦乱として学習している。通過率は46.3%とやや低かった。誤答のうち、42%の解答が「応仁の乱」であった。問題文中の「あとつぎをめぐる戦い」から、誤認したと考えられる。

問3 室町時代の貿易に関する問題である。通過率は52.6%で今一歩であった。勘合を使用した「目的」と、名称である「勘合」や中国の王朝名である「明」を用いることが、解答の条件であった。中国の王朝名を「宋」としたり、勘合を「朱印状」としている解答がみられた。また、それらに触れられていないものもあった。授業など適切な場面を設定し、指示通りに表現する力を身に付けさせたい。さらに、日頃から授業において、教科書等に示されている図版を見せたり、模型教材や実物教材を使用した体験的な学習をさせたりすることで、より興味・関心が高まり、知識が定着すると思われる。

問5 天保の改革に関する問題である。通過率は26.5%と低かった。幕府政治の改革のうち、外国船打払令を緩和したのは、天保の改革のときである。江戸幕府の政治改革については、それぞれの特色を表にまとめさせた上で比較させるなどの方法が考えられる。その際、それぞれの改革の時期の、外交や内政上の課題や背景などもあわせてまとめさせるとともに、改革を行った原因や理由を考えさせることで、思考力が育成されるものとする。

4 近現代の日本と世界に関して、政治、経済及び外交などにわたって歴史の流れをとらえる力と、基礎的な知識をみようとしたりしたものである。全体の通過率は47.9%とやや低かった。

問1 条約改正交渉の推移に関する理解をみる問題である。年表中に、日米修好通商条約と、陸奥宗光や小村寿太郎を示すことで、不平等な条約の内容について受検生は想起できる。通過率は57.3%と今一歩であった。また、年表とまとめから、2つの条約における不平等な具体的な内容を的確に区別できるかと思われたが、誤答の10%程度の受検生が、治外法権と関税自主権を逆に答えていた。授業では、単なる用語の暗記だけにならないように、ワークシート等にその内容を記述させるなど、生徒の理解を深めさせる場面の設定が望まれる。

問2 衆議院議員選挙の選挙権の変遷に関する問題である。通過率は44.8%とやや低かった。受検生の解答からみられる傾向は、戦後の婦人参政権に関する解答は多くあったが、それまでの選挙権における年齢条件の推移についての理解が不足していたようである。また、3つの資料のそれぞれに触れず、相違点が明確でないものが多かった。授業では、複数の資料を分析する機会を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努める工夫が必要である。

問4 大正から昭和初期にかけての社会や経済の様子に関する理解をみる問題である。通過率は47.7%とやや低かった。誤答はウ、次いでエが多く、官営模範工場や内国博覧会に代表される政府の産業育成政策や、文明開化に関する理解が不十分であった。近現代の歴史学習が、いっそう重視されていることを理解し、近現代における歴史学習の時間をしっかりと確保するため、年間指導計画に基づいた、適切な授業時数の配分が不可欠である。

5 生徒がテーマを設定してレポートを書く場面を想定し、日本の政治や経済などに関する基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・表現力をみようとしたりしたものである。全体の通過率は29.7%と低かった。

問1 日本国憲法の基本的な人権の保障についての知識を問う問題である。通過率は38.9%と低かった。憲法に保障されている人権同士が衝突した場合、「公共の福祉」に基づく調整は非常に重要な意味をもつことになる。これらについては、身近な事例を設定し、丁寧に説明することが求められる。

問2 議院内閣制に基づき、内閣総理大臣がどのような手順で選出されるかについての知識と思考力を問う問題である。通過率は4.4%ときわめて低かった。誤答には、衆議院総選挙の投票と、内閣の総辞職の順番が前後しているものが多かった。衆議院総選挙の後に、内閣が総辞職をして、内閣総理大臣が選出されるといった簡単な説明で済ませず、丁寧に授業を進めることが大切である。

問3 三権の関係を示す図をみながら、行政権と司法権の抑制と均衡の関係の知識をもとに説明をする表現力をみる問題である。通過率は17.5%であり、きわめて低かった。正答に至らなかったものには、立法権と行政権の関係や、立法権と司法権の関係を示しているものが多く、問題文で求めた行政権と司法権の関係を解答できなかったというものである。教科書等で図示されている事柄については、教師から説明するだけでなく、生徒自らが主体的に相互の関係性を説明するような学習を、日頃から

取り入れることが必要である。

問6 日本企業の海外進出に関する2つのグラフを読み取り、解答を記述させることで、資料活用の技能、思考力、表現力をみる問題である。通過率は47.3%で、やや低かった。

グラフ1からアジア地域に進出する日本企業が増えた現象を読み取り、グラフ2からはアジア地域に属するフィリピン、中国、インドの3か国の賃金が安いことを読み取ることが求められた。正答に至らなかった解答には、日本企業のアジア進出については読み取れたが、その理由が書かれていないものが多かった。複数の資料がある場合は、それぞれの資料がどのように関連付けられるかを考えさせ、その結果を、発表させたりノートに記述させたりする指導が望まれる。

⑥ 日本の伝統的工芸品について調べる学習場面を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野に関連した基礎的・基本的な知識や資料活用の技能や思考力などを総合的にみる問題である。全体の通過率は42.4%とやや低かった。

問1 伝統的工芸品の指定品目数が上位の都府県の位置について答えさせる問題である。通過率は56.7%であり芳しくなかった。誤答は、「兵庫県」「京都府」「愛知県」「福岡県」の順に多かった。また、表に示されていない都道府県を答えた受検生が約10%、無答が約15%であった。都道府県の位置と名称は小学校段階から繰り返し確認しているが、あまり知識として定着していないことがうかがえた。日々の授業の中で、取り上げる都道府県について、地図帳で確認する習慣をもたせたい。

問3 吾妻鏡に関する資料をもとにして「承久の乱」を解答させるとともに、その結果について問う問題である。通過率は22.5%と低かった。承久の乱を経て、鎌倉幕府の支配力が朝廷や西国に拡大していった大きな流れを理解していないと正答にならない。また、「承久の乱」については受検生の約27%が、その結果については約30%が正答であった。各単元を学習した後、歴史を大観できる学習場面を設定すること、歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明する学習を重視して、思考力、判断力、表現力を育成するとともに、学習内容の理解と定着を図ることが必要である。

問5 埼玉県内の伝統的工芸品にかかわって、文化財保護法の名称などを答える問題である。通過率は36.7%と低かった。無答率は19.8%であった。「伝統的な工業などの地場産業」は、小学校の学習に含まれるもので、これを活用して我が国の伝統と文化に関心をもたせたい。また、「歴史的分野における学習の成果を生かして特色あるものを扱うこと」が求められており、地域や学校の特色、生徒の実態に応じた工夫が必要である。文化の継承と創造の意義に気付かせつつ、文化財保護法などの基礎的・基本的な知識は確実に習得させたい。

## トピック

本年度の問題には、資料を読み取り文章で説明する問題が6問出題された。平均の正答率は約27%、通過率は約48%だった。また、無答率は約23%だった。これらは、得点に大きな開きがうまれやすい。教師は、資料を読み取り論理的に説明させる、または、文章でまとめさせるなどの学習を、意図的に年間指導計画に位置づけ指導に当たることが必要である。以下に学習過程を踏まえた授業モデル例を示す。

### ① 学習課題の的確な把握

テーマに沿った資料を教師が用意し、事実を十分に理解させ、課題を的確に把握させる。

### ② 学習課題の追究

課題解決に向けた情報や資料を収集させ、客観的な根拠に基づいて論理的に自分の考えを書かせる。

\*根拠資料をもとに個人の仮説をたてさせる。

少人数グループで話合わせる。

\*グループで熟考・評価→適切と思う仮説の考察→発表活動

### ③ 学習課題の解決と深める学習

考えを明確にさせ、論理的に伝えさせる。

\*発表グループに根拠となる資料をもとに発表させる。他のグループに質問・補足説明を行わせる。

学習課題の解答を整理させる。

\*発表をもとに課題の解答となる理由を整理させる。

### ④ 学習のまとめ

学んだことを適切に表現・発信させる。

\*白地図、年表、レポート、ポスター等にまとめさせる。その際、キャッチフレーズ的な短い文章にまとめさせる等の工夫をする。